

# zuを伴う不変化詞動詞

—aufを伴う不変化詞動詞と対比して—\*

時田 伊津子

## 1. 導入

zuを伴う不変化詞動詞（以下 zu 動詞と呼ぶ）には、「閉める」「閉まる」といった意味を持つ動詞がある。このような意味用法は zu 動詞の主要な用法の一つである。例えば、Fleischer/Barz (2012: 416) は動詞不変化詞 zu が担う語形成の意味として、第一に場所的で「近づける」(annähern) という意味を示すもの (zulächeln, zublinzeln, zuschlagen, zugeben 等)、第二に「閉める」(schließen) という意味を示すもの (zubleiben, zugehen, zudrücken 等) を挙げている。

- (1) a. Sie lächelte dem Kind zu.  
b. Das Publikum jubelte dem Sänger zu.
- (2) a. Sie drückte die Tür zu.  
b. Die Tür flog zu.

例文 (2) のような「閉鎖」の意味をもつ zu 動詞は、auf を伴う不変化詞動詞（以下 auf 動詞と呼ぶ）と対義関係を示す場合がある。このような「開放」の意味を持つ auf 動詞については、時田 (2023) で意味的な分類を見直し、またコーパスにおける形容詞 *offen* を含む表現との相違を示した。

- (3) a. Sie drückte die Tür auf.  
b. Die Tür flog auf.

本稿では、時田 (2023) をふまえた上で、zu を伴う不変化詞動詞のうち「閉める」「閉まる」といった閉鎖の意味を持つ動詞を対象に、第一に意味分類を見直し、第二にコーパスにおけるふるまいを調査し、それらの結果を auf を伴う不変化詞動詞の場合と対比することを目的とする。

以下では、第 2 節で先行研究における zu 動詞の意味用法についての記述を確認し、第 3 節で閉鎖の意味を表す zu 動詞の意味分類を改めて試みる。最後に第 4 節でコーパス調査を行なう。第 3 節、第 4 節ではそれぞれ auf

動詞との対比も行なう。

## 2. 先行研究

本節では、先行研究における *zu* 動詞の意味的用法と、閉鎖を表す意味用法の下位分類についての記述を確認する。

### 2.1. *zu* 動詞の意味的用法

Fleischer/Barz (2012: 416) は、動詞不変化詞 *zu* は単一動詞や複合動詞に付加され (例えば *zusagen*, *zubereiten*; 以下同様)、また名詞を動詞化する (*zumuten*) と述べ、意味の変更に伴って統語的变化、すなわち項構造の変化が生じることがある (*blinzeln* – *jmdm. zublinzeln*) と指摘している。また 1) 場所を表す造語意味 „annähern“ と、2) 造語意味 „schließen“ の 2 つに分類し、前者については動詞不変化詞 *an* と同様に「基礎動詞の行為が人や物へ向けられること」(*jmdm. zulächeln*)、「人や物への暴力的作用」(*zuhauen*, *zuschlagen*)、「付加」(*zugeben*, *zubereiten*) の 3 種を挙げている。また後者の造語意味 „schließen“ については「状態動詞、動的な自動詞・他動詞」(*zubleiben*, *zugehen*, *zudrücken*) で実現されるとし、*auf* 動詞が対義語を形成すると述べている。

DWDS は、動詞不変化詞 *zu* の意味として 6 つの項目を挙げ、そのうち 5 つでは実際に動詞の意味に言及している。以下に各項目の概要と動詞の例の一部を挙げる。

1. 人や物への方向 (*zubewegen*, *zublinzeln*, *zubeißen*, *zuflüstern*)
2. そちらからこちらへの動きの終点 (*zureisen*, *zuwandern*, *zuziehen*)
3. 付加, 添加 (*zubekommen*, *zufügen*, *zuttern*, *zuschießen*)
4. 閉鎖 (*zuballern*, *zudecken*, *zubauen*, *zubleiben*)
5. 予定した形を含むこと (*zuhauen*, *zureiten*, *zurichten*, *zuschlagen*)
6. 文法: この 5 つのタイプに応じて、豊富な数の動詞が作られ、(中略) 名詞と形容詞もこのタイプに準じている。 (DWDS: „zu-“)

### 2.2. 閉鎖を表す *zu* 動詞

ここではさらに、閉鎖の意味を表す *zu* 動詞について、先行研究の記述を確認する。

Grimm (1954: Bd. 32, Sp. 156f.) は、*zu* を伴う複合動詞のうち閉鎖、遮断 (*schlieszen*<sup>1)</sup>, *sperrern*) の意味を表すものについて、歴史的変遷に言及した上で、4つのグループに分類している。以下に動詞の例の一部とともに、記述を引用する。なお、動詞不変化詞の *auf-* との交換は全ての動詞で可能なわけではなく、一般には以下の第一、第三グループ (a, c) でのみ可能であると述べている：

- a) この動詞は、ドアの扉などが閉鎖する位置へと用いられることで、ドア等の閉鎖を表す。(zumachen, -drücken, -schlieszen, -sperrern)
- b) 開いたものか露出しているものが閉鎖されるか覆われて、その際に単一動詞が特定の行為を表す。(zuckern, -bauen, -beizen, -biegen)
- c) 動詞になった名詞と *zu* が直接結びつく。名詞は閉鎖 „zumachen“ の際に使用される道具を表すか (zubeilen, -hobeln, -hämmern, -keilen), 何かを閉鎖する際に用いる対象 (zuklinken, -riegeln; zugürten, -häfteln; zukorken, -pflöcken), もしくはその際用いられる手段 (zukleistern, -leimen, -löthen, -pechen), あるいは何かを閉鎖するために、生じる対象 (zudämmen, -deichen, -graben, -mauern) を表す。
- d) 自動詞の場合も *zu* はこの意味を表す。より一般的な *zugehen* と並び、よりはっきりとした具体性を持った他の動詞がいくつか存在する。(zufrieren, -rosten; zuheilen, -narben; zubecken, -kleben)

Grimm (1954: Bd. 32, Sp. 156f.)

以上のように Grimm (1954) は、*zu* 動詞が表す行為や動作において、基礎動詞部分が閉鎖という出来事に対してどのような意味関係にあるかという点にも注目している。

一方、DWDS では動詞不定詞 *zu* の項目のうち「閉鎖」(ein Schließen, Verschließen) を表す *zu* 動詞は、不変化詞動詞全体の意味に基づいて下位分類されている。ここでは、以下のように a) 閉めることを表す状態変化の動詞と d) 閉まっている状態を表す動詞を別の分類としている点が特徴的である。

「閉鎖」(ein Schließen, Verschließen)

- a) *zuballern, zubekommen, zubinden, zubringen, zudrehen, zudrücken, zufallen, zugehen, zuhaken, ...*<sup>2)</sup>
- b) 覆う, 覆いかくす (bedecken, verdecken) : *zudecken, zuschneien*

c) 開口部を埋める (eine Öffnung ausfüllen) : *zubauen, zugipsen, zumauern, zuschaukeln, zuschmieren, zuschütten, zuwerfen*

d) 閉まっている (geschlossen) : *zubleiben, zuhaben, zuhalten, zulassen*

(DWDS: „zu-“)

また, Aktaş (2004) は, Brockhaus-Wahrig に記載された 213 の zu 動詞, 268 の意味用法を分析し, その結果, „*etw. schließen bzw. sich schließen*“ を表す用法は 87 の動詞で確認されたとして, 次の 5 つの下位区分を設定している。Aktaş (2004: 98ff.) の分類では, DWDS の分類に比べるとさらに他動詞と自動詞が (zu)<sub>1,1</sub> と (zu)<sub>1,3</sub> に区別されている。

(zu)<sub>1,1</sub> 一般的に閉鎖 (ein Zumachen bzw. Schließen) を表す (54 動詞)

Der Sack ist voll und muss *zugebunden* werden.

(zu)<sub>1,2</sub> 開口部や窪みを埋めて閉じる (eine Öffnung bzw. Vertiefung füllend schließen) という意味を表す (11 動詞)

Der Graben sollte möglichst schnell *zugefüllt* werden.

(zu)<sub>1,3</sub> 何かが自ら閉まること (dass ,*etw. sich bzw. von selbst schließt*“) を表す (9 動詞)

Die Augen *fielen* ihm vor Müdigkeit fast *zu*.

(zu)<sub>1,4</sub> 何かが既に閉まっていること (dass ,*etw. bereits geschlossen ist*“) を表す (5 動詞)

Das Geschäft *hat* über Mittag *zu*.

(zu)<sub>1,5</sub> 何かを覆う (*etw. bedecken*) という意味を表す (8 動詞)

Das Kind war gut *zugedeckt*. (Aktaş 2004: 98ff.)

### 3. 閉鎖を表す zu 動詞の意味分類

#### 3.1. 意味分類の試み

本節では, 上記で触れた先行研究も参考にし, 閉鎖を表す zu 動詞の意味的分類を改めて試みる。調査対象とした動詞は, まず Griesbach (1991: 38f.) に記載のある 64 の動詞とした。これらの動詞について Duden Universalwörterbuch (2015) における意味記述を確認したところ, 閉鎖の意味に該当する用法を持つ動詞は 22 であった。これは時田 (2023) で扱った auf 動詞 (37 の動詞) と比較するにはやや少ない数である。そのため, 次の段階として上述の DWDS の項目, 「動詞不変化詞 zu-」の 4. 「閉鎖」

(ein Schließen, Verschließen) に記載のある 51 の動詞 (zuhalten は 2 回記載) のうち Griesbach (1991: 38f.) と重複しない 32 の動詞を対象にし、同様に Duden (2015) の辞書記述を調査した。その結果、26 の動詞で、閉鎖に関連する意味項目を含む記述が確認された。両者から収集した計 48 の動詞のうち、Duden (2015) で具体的な事例が挙げられている 45 動詞を調査対象とする。

なお、今回の意味分類では Lechler/Roßdeutscher (2009) による記述を手がかりとした。Lechler/Roßdeutscher (2009: 467) では open の意味を表す *auf* について下記のように述べている：

Just like *offen, auf* can be used as a predicator for nominal descriptions if the denotation of the description either has a barrier that makes some second region inaccessible or if it is such a barrier itself. So both the adjective *offen* as well as the particle used in a predicative expression involve two related regions. In *das Zimmer, das Gurkenglas, das Geschäft, das Auge ist auf/offen* ('the room, the gherkin jar, the shop, the eye is [up]/open') the entities function as Ground entities in the predicate, whereas those in *die Tür, der Glasdeckel, der Riegel, das Augenlid ist auf/offen* (the door, the glass lid, the bolt, the eye-lid is [up]/open) introduce figures.

(Lechler/Roßdeutscher 2009: 467)

本稿ではこの記述を応用し、閉鎖を表す *zu* 動詞は内項の指示対象が「2 つ目の空間へのアクセスを妨げる」障壁を持つか、あるいは障壁そのものであるという前提に従う。

収集した *zu* 動詞は、共起する内項と共に表す意味に基づく、以下の 4 つのタイプに分類できる。

第一に、ドアや窓などを閉めること、それらが閉まること、あるいは閉まっていること、閉めておくことを表す動詞群がある。例文と動詞の例は次の通りである。使役の状態変化を表す他動詞 (4a), (5a), 状態変化を表す自動詞・再帰動詞 (4b), (5b) と並んで、内項の状態を表す他動詞 (4c), (5c), 状態を表す自動詞 (4d), (5d) が確認された。事例の出典はいずれも Duden (2015) である (以下同様)。

- (4) a. die Tür zumachen  
b. Die Tür flog zu.

- c. Du musst den Mantel zulassen.
  - d. Der Laden hat schon zugehabt.
- (5) a. zubekommen, zubinden, zubringen, zudrehen, zudrücken, zuklappen, zukleben, zuknallen, zukneifen, zuknoten, zumachen, zunageln, zunähen, zupressen, zuriegeln, zuschieben, zuschlagen, zuschließen, zuschrauben, zustecken, zustopfen, zustöpseln, zustoßen, zutun, zuwerfen, zuziehen
- b. zufallen, zufliegen, zugehen, zuheilen, zuklappen, zuknallen, zumachen, zuschlagen, zuschwellen, zuwachsen, sich zutun
  - c. zuhalten, zulassen
  - d. zubleiben, zuhaben

このような動詞群をタイプ A とする。これらの動詞の内項は、ドアのように閉まる対象もしくは閉まっている対象を表し、閉鎖により「2つ目の空間へのアクセスを妨げる」障壁となる。内項にはドア (*Tür*) や窓 (*Fenster*) の他、カーテン (*Vorhang*) やトランクルームの蓋 (*Kofferraumdeckel*) のように開口部を閉めるもの、木箱 (*Kiste*)、引き出し (*Schublade*)、袋 (*Sack*) のように限定された空間や、目 (*Auge*) や口 (*Mund*) など開閉できる身体部位、南京錠 (*Vorhängeschloss*) のようにドアなどを閉めた状態で固定する対象を表す例も見られる。

- (6) a. den Vorhang zuziehen
- b. Die Kiste bleibt zu.
  - c. bei der kalten Luft den Mund zuhalten
  - d. ein Vorhängeschloss zudrücken

第二に、開口部や道などを覆うこと、それらが覆われることを表す動詞群がある。例文と動詞の例は次の通りである。使役の状態変化を表す他動詞 (7a), (8a) と状態変化を表す自動詞・再帰動詞 (7b), (8b), また内項の状態を表す他動詞 (7c), (8c) が収集された。

- (7) a. das Kind [mit einer Decke] zudecken
- b. Das Fenster war mit Efeu zugewachsen.
  - c. sich die Nase zuhalten
- (8) a. zudecken, zuhängen
- b. zuschneien, zuwachsen, sich zuziehen
  - c. zuhalten

このような動詞群をタイプBとする。これらの文の内項は覆うことができるものを指示し、動詞によって窓 (*Fenster*) や鼻 (*Nase*) などの開口部、人 (*Kind*) や道 (*Weg*)、空 (*Himmel*) などを表すこともある。それらの指示対象が何によって覆われるかは、必ずしも明示されるわけではない。(7a) や (7b) のような例では覆う物が *mit* 前置詞句で表示され、以下の (9a) では動詞 (*zuschneiden*) の基礎動詞部分によって表示されている。また、上記 (7c) のように手で覆われること、あるいは (9b) のように雲で覆われることが含意される場合もある。

(9) a. Der Weg ist [total] zugeschnitten.

b. Lass uns gehen, der Himmel hat sich schon ganz zugezogen.

第三に、穴や窪みなどを埋めることを表す動詞群がある。例文と動詞の例を以下に挙げる。これらはいずれも使役の状態変化を表す他動詞である。

(10) eine Grube [mit Sand] zuwerfen

(11) zubauen, zumauern, zunageln, zuschaukeln, zuschmieren, zuschütten, zustellen, zustopfen, zuwerfen

このような動詞群をタイプCとする。これらの動詞の文では、内項が窪み (*Grube*) や入り口 (*Eingang*) あるいは耳 (*Ohr*) など身体部位等の開口部、また空間 (*Gelände*) や道 (*Gehwege*) などを表す。何がそこを埋めるかは、タイプBと同様、例 (10) や (12a) など *mit* 前置詞句で表示される場合もあれば、(12b) のように動詞 (*zumauern*) に表示される場合や (12c) のように表示されない場合もある。

(12)a. Ich habe mir die Ohren mit Watte zugestopft.

b. eine Türöffnung zumauern

c. Dieses freie Gelände wird auch bald zugebaut sein.

第四に、紐やネジなどを締めること、結ぶこと、それらが締まることを表す動詞群がある。例文と動詞の例を以下に挙げる。使役の状態変化を表す他動詞 (13a), (14a) と状態変化を表す再帰動詞 (13b), (14b) がある。

(13) a. Du musst dem Kind die Schnürsenkel [fester] zubinden.

b. Je mehr du ziehst, desto fester zieht sich die Schlinge zu.

(14) a. zubinden, zudrehen, zuknoten

b. sich zuziehen

このような動詞群をタイプDとする。これらの動詞の文では、内項は

靴紐 (*Schnürsenkel*) やナット (*Mutter*) など結んだり, 締めたりするもの, あるいは結び目 (*Knoten*) や束 (*Bündel*) などであり, 開口部や空間ではない。なお, タイプ A ~ C と異なりこのタイプについて DWDS と Aktas (2004) では言及がされていない。

- (15) a. Nicht vergessen, die Muttern fest zuzudrehen.  
b. einen Knoten zuziehen  
c. ein Bündel zubinden

### 3.2. auf 動詞との対比

この節では3つの観点から zu 動詞と auf 動詞と対比する。初めに, タイプ A ~ D の zu 動詞の用法について, 対応する auf 動詞が辞書に記載されているかを調査する。その結果をふまえ, 次に zu 動詞の意味分類と時田(2023)で提示した auf 動詞の意味分類との対応関係を確認する。最後に, 対応する auf 動詞の有無を左右する一因となる基礎動詞部分の担う意味に注目する。

#### 3.2.1. 各タイプの動詞の意味用法

第一に, 各タイプの事例に対応する auf 動詞について, 辞書記述の有無を調査する。本節でも Duden (2015) を対象とし, 3.1 節と同様に, auf 動詞について内項との意味関係を考慮する。例えば, 以下の文ではいずれも動詞 *zudrehen* が用いられているが, a 文は蛇口や水道を回して閉めること, b 文は(蛇口などを)回して閉めることで水を止めることを表し, c 文はナットを回してしっかりと締めることを表している。これらの用例は異なる意味用法として区別する。

- (16) a. einen Hahn, die Wasserleitung zudrehen  
b. Dreh das Wasser zu!  
c. Nicht vergessen, die Muttern fest zuzudrehen.

調査の結果, 「閉める」という意味に代表されるタイプ A では, (17) など 28 の意味用法 (64%) において対応する auf 動詞表現が記載されていた。一方, (18) など 16 の用例 (36%) では記載がなかった。このタイプの多くは, Grimm (1954) で *auf* との交換が可能とされた a) の zu 動詞に該当するが, 今回の調査でも過半数の用法で対応が確認された。

- (17) a. die Tür zudrücken/aufdrücken  
 b. Die Tür flog zu. / Das Fenster flog auf.  
 c. die Tür zuhalten / jmdm. die Tür aufhalten  
 d. Die Tür bleibt zu. / Das Fenster ist die ganze Nacht über aufgeblieben.

- (18) a. den Mund zukneifen  
 b. Die Tür fiel krachend zu.

「覆う」等の意味のタイプ B と「埋める」等の意味のタイプ C では (19) と (20)、それぞれ 1 つの動詞の用法 (*zudecken*, *zuschaukeln*) で対応する *auf* 動詞表現が確認された。タイプ A と異なり、(21) や (22) など対応する *auf* 動詞が記載されないものの方が多い。タイプ B は Grimm (1954) が *auf* との交換が可能ではないとした b) に該当するが、今回の調査ではこの記述に近い結果となった。

- (19) das Kind [mit einer Decke] zudecken / das Kind aufdecken  
 (20) eine Grube zuschaukeln / ein Grab aufschaukeln  
 (21) a. ein Fenster zuhängen  
 b. Der Weg ist zugewachsen.  
 c. [sich] die Ohren zuhalten  
 (22) ein Loch zumauern

また「締める」などの意味のタイプ D では、*auf* 動詞の表現が対応する用法 (23) と対応しない用法 (24) がそれぞれ 2 つずつ観察された。

- (23) a. ein Bündel zubinden / die Schnürsenkel aufbinden  
 b. Nicht vergessen, die Muttern fest zuzudrehen. / eine Schraube aufdrehen  
 (24) a. einen Knoten zuziehen  
 b. Je mehr du ziehst, desto fester zieht sich die Schlinge zu.

表 1 に、対応する *auf* 動詞の記載状況をまとめて挙げる。タイプ A 以外の用例数は多くないが、タイプ A とタイプ B、C の傾向は異なると考えられる。この用法の数を見る限り、特にタイプ B ~ D について *auf* 動詞で対応する意味分類が想定しにくいように思われる。そこで次節 3.2.2 で *zu* 動詞と *auf* 動詞の意味タイプとの対比を行なう。また、この表からある程度、意味タイプ毎の傾向が把握できるが、タイプ A の結果に基づくと *auf* 動詞の有無を分ける要因が意味タイプであるというには根拠が不十分である。それではどのような要因が考えられるだろうか。この点については、

以下の 3.2.3 で扱う。

表 1 対応する auf 動詞の有無（意味分類別）

	タイプ A	タイプ B	タイプ C	タイプ D	計
auf 動詞 有	28	1	1	2	32
auf 動詞 無	16	5	7	2	30
計	44	6	8	4	62
有の割合	64%	17%	13%	50%	52%

### 3.2.2. zu 動詞と auf 動詞の意味分類

次に zu 動詞と auf 動詞の意味タイプの対比を行う。時田（2023）では OPEN の意味を含む auf 動詞の意味分類を見直し、タイプ 1「開ける、あく、開いている、開けてある」、タイプ 2「ほどく（広げる）、ほぐれる（広がる）」、タイプ 3「（身体部位について）傷つける、傷つく」の 3 つの分類を提案した。

- (25) a. Er trat die Tür auf.  
 b. Plötzlich ging die Tür auf.
- (26) a. Er bog den Schlüsselring auf.  
 b. Der Knoten geht immer wieder auf.
- (27) a. Er hat sich die Lippe aufgebispen.  
 b. Die Hände sind aufgesprungen.

3.1 節で示した zu 動詞の下位分類を時田（2023）の auf 動詞と比べると、まず zu 動詞のタイプ A「閉める、閉まる、閉まっている、閉めてある」と auf 動詞のタイプ 1「開ける、あく、開いている、開けてある」に対義的な関係が認められる。例（4）や（25）でも挙げたように内項は *Tür* や *Fenster* など開閉できる指示対象、もしくは限定された空間や開口部などを表す。また、zu 動詞のタイプ D「締める、締まる」と auf 動詞のタイプ 2「ほぐす／広げる／分ける、ほぐれる／広がる／分かれる」の間にも対義関係が考えられる。zu 動詞のタイプ D の動詞は少ないが、内項は紐状のもの（*Schnürsenkel*, *Schlinge*）とナット（*Mutter*）、束と結び目（*Bündel*, *Knoten*）が挙げられている。一方、時田（2023）で扱った auf 動詞のタイプ 2 には 17 の動詞が該当し、内項は結束したもの（*Knote*, *Schlüsselringe*）、広がるもの（*Schirm*, *Tulpen*）、かたまり（*Asphalt*, *Brot*）

などヴァリエーションに富んでいる。「覆う」のタイプ B と「埋める」のタイプ C に関して 3.1 節の調査では対応する auf 動詞が各 1 動詞と数が少なかったが、時田 (2023) においてもグループを形成するほどの例はなく、タイプ 1 に含まれている。それに対し、auf 動詞のタイプ 3「傷つける、傷つく」に対応する zu 動詞の例は確認されなかった。なお文意としては、内項が身体部位の例ではなく、開口部にあたる「傷」が閉じて治ることを表す表現 (タイプ A) が対応する。

(28) Die Hände sind aufgesprungen.

(29) Die Schürfwunde ist zugeheilt.

図 1 に対応関係を示す。この図からも分かるように、閉鎖を表す zu 動詞と開放を表す auf 動詞はどのような下位分類でも完全に対応するのではないといえる。

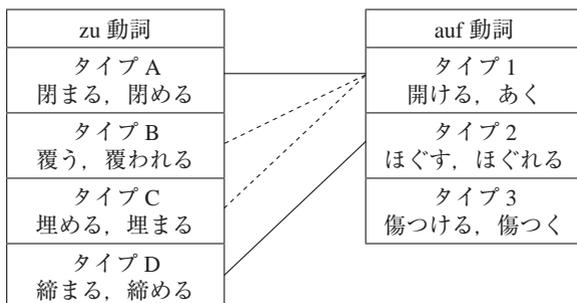


図 1 zu 動詞と auf 動詞の意味分類の対応

### 3.2.3. 基礎動詞部分の意味

最後に、zu 動詞に対応する auf 動詞について、辞書記載の有無はどのような要因によって左右されるのか考察する。不変化動詞は不変化詞と基礎動詞部分から構成される。Stiebels (1996: 161) も指摘しているが、例えば不変化詞 auf の表す状態は動詞 brechen の表す結果と一致するため不変化詞動詞 aufbrechen は成立する。その反面、不変化詞 zu は brechen の引き起こす結果を表さないため、zubrechen という不変化詞動詞は不可能である。このように基礎動詞部分の担う意味は、不変化詞動詞の成立を左右する可

能性がある。そこで、基礎動詞部分の意味を手がかりに auf 動詞の有無を確認する。

まず、対応する auf 動詞が観察されているのは、zu 動詞のうち基礎動詞部分が機能動詞的なもの (zumachen, zugehen 等) や開閉の状態を招く行為を表すもの (zudrücken, zuschlagen 等) が多い。また、移動あるいは音を伴う移動を表すもの (zuschieben, zufliegen 等; zuklappen<sup>3)</sup>, zuknallen 等) もみられる。これらの基礎動詞が表す出来事は開閉両方の結果をもたらす。なお、基礎動詞部分は必ずしも閉鎖の状態を導く具体的な動作を表すとは限らない。例えば、zuschlagen は「(ドアを) 叩いて閉める」のではなく「ボタンと閉める」という意であり、zufliegen は「(ドアが) 飛んで閉まる」のではなく「急にボタンと閉まる」という意味を表す。すなわち閉鎖の状態に至る過程の様態を示している。また、基礎動詞が移動を表す zubringen や受領を表す zubekommen は、基礎動詞の意味がそのまま不変化動詞に反映されるのではなく、いずれも (nur mit Mühe) schließen können という意味合いとなる (Duden 2015: 2083)。この動詞の場合も基礎動詞部分に、どのように閉まるかという様態が含意されると解釈できる。

- (30) a. die Tür zumachen/aufmachen  
b. die Tür zudrücken/aufdrücken  
c. Die Tür flog zu / Das Fenster flog auf.  
d. den Kofferraum zuklappen/aufklappen  
e. den Koffer nicht zubekommen / einen Koffer schwer aufbekommen

周辺的な例ではあるがタイプ D の zubinden, zuknoten とタイプ A の zuschließen では基礎動詞部分が状態変化を表す。これらの基礎動詞 binden 「結ぶ」、knoten 「結ぶ」、schließen 「閉じる」はいずれも zu の状態と類似した結果状態を含意するが、auf とも不変化動詞を形成する。Lechler/Roßdeutscher (2009: 468f.) が die Tür aufschließen について指摘しているように、これらの不変化動詞表現は die Tür schließen など動作を示す基礎動詞の表現から派生するのではないと考えられる。むしろ「結んであるもの」、「(鍵の) 閉まっているもの」を auf の状態にするという含意があると推測される。また、タイプ B の das Kind zudecken 「子供に(覆いを) 掛ける」では、基礎動詞部分 decken が内項以外の対象(覆い)の移動を表す。decken の語義「被せる、覆う」は、動詞不変化詞 zu と意味的な一致が認

められるのに対し、不変化詞 *auf* とは逆の意味を表すように思われる。このような場合も *aufbinden* などと同様に「覆われているもの」を *auf* の状態にすると解釈できるだろう。

(31) a. die Haustür zuschließen/aufschließen

b. das Kind zudecken/aufdecken

一方、*zu* 動詞のなかで、対応する *auf* 動詞の記載が Duden (2015) で確認されないものは、基礎動詞部分が状態変化を示す場合が多い。これら *zukleben*, *zunähen* などの動詞では、基礎動詞部分が表す状態変化の結果 (*zukleben* の場合 *kleben* の結果) は *zu* の状態 (貼りついて閉まっていること) と一致し、その反面 *auf* の状態 (開いていること) との一致が考えにくい。<sup>4)</sup> また *zunageln*, *zuriegeln* のように基礎動詞部分が結果状態をもたらす道具を表す動詞もある。例えば *zunageln* は *zukleben* と同様の理由で *auf* との一致は想定しにくい。一方、*zuriegeln* の基礎動詞部分 *riegeln* (かんぬきを掛ける) は *zu* の状態と一致するが、上記の *zuschließen* と同様、開閉することが前提となっている行為である。対応する *aufriegeln* の項目は、Duden の Universalwörterbuch 第 8 版 (2015) には記載がないが、第 6 版 (Duden 2007) には記載されている (*das Tor, die Tür aufriegeln*)。ここから、時代とともに用法や辞書記述に変遷がある可能性がうかがえる。<sup>5)</sup> 並んで、基礎動詞部分が移動を表すもの (*zufallen*, *zuziehen*) もあるが、上記 (30c) の例と異なり、基礎動詞 (*fallen*) の意味や内項との意味関係 (*einen Knoten ziehen*) から *auf* との共起は意味的に困難であると考えられる。さらに、タイプ B やタイプ C で内項以外の対象の状態変化や移動を表す表現も少なくない (*zubauen*, *zumauern*; *zuhängen*, *zustellen* 等)。基本的には、基礎動詞部分が状態変化を表すものと同様、不変化詞動詞 (と内項等) の表す出来事の結果と *auf* の表す状態が一致していないため、*auf* 動詞が実現しないと考えられる。

(32) a. den Brief zukleben

b. das Tor zuriegeln

c. Die Tür fiel krachend zu.

d. Der Weg ist zugewachsen.

e. Dieses freie Gelände wird auch bald zugebaut sein.

表 2 に基礎動詞部分の意味ごとに該当する用法の数を挙げる。この結果

に基づく、個別的な意味特徴による例外はあるものの、概ね基礎動詞部分が状態変化を表す場合、そして内項以外の項についての行為等を表す場合は auf 動詞が実現しにくいと考えられる。

表2 対応する auf 動詞の有無（基礎動詞部分の意味別）

		有	無	計	有の割合
機能動詞		9	1	10	90%
行為		9	3	12	75%
移動		4	4	8	50%
音・移動		3	1	4	75%
受領		1	0	1	100%
状態変化		3	12	15	20%
内項以外の項	行為	0	1	1	0%
	移動	2	3	5	40%
	状態変化	0	5	5	0%
計		32	29	62	52%

以上、第3節では閉鎖を表す zu 動詞の意味分類を試み、4つのタイプを提案した後、開放を表す auf 動詞との対比を行なった。具体的には zu 動詞に対応する auf 動詞について辞書の記載があるかタイプ別に調査した上で、zu 動詞と auf 動詞の意味タイプを対比し、意味分類は必ずしも完全に一致するわけではないことを明らかにした。さらに、auf 動詞の記載の有無は概ね基礎動詞部分の意味に左右されることを示した。

#### 4. コーパス調査

##### 4.1 auf 動詞と形容詞 *offen*

zu 動詞と対義的な関係にある auf 動詞は形容詞 *offen* を含む表現と意味が重複する場合がある。

(33) Sie hat die Tür **auf**gelassen/**offen**gelassen. (Kratzer 2005: 190)

時田 (2023 : 195ff.) ではコーパスを用いて、auf あるいは *offen* が *die Tür* と共起する文に何らかの意味的差異が見られるか調査した。その結果、

以下のような事例が収集された。<sup>6)</sup>

- (34) a. Ich mache die Tür auf und schaue hinaus. (Der Spiegel, 18.03.1964)  
 b. Plötzlich geht die Tür auf. (Rhein-Zeitung, 02.06.2014)
- (35) a. Die SPD will die Tür offen halten. (Nürnberger Nachrichten, 30.01.2007)  
 b. als die Tür einen Moment offen gestanden habe. (Spiegel Online, 29.03.2003)

収集した事例を分析したところ、表3のように auf 動詞はもっぱら状態変化を表し、特に (34a) のような他動詞文が多く実現していることが明らかになった。一方、*offen* の表現は状態を表す事例のみが収集され、(35b) のような自動詞文の頻度が高いことが分かった。この結果から、状態変化を表すには不変化詞動詞、状態を表すには形容詞を用いるという使い分けがあると推測された。

表3 コーパスで *die Tür* と共起する事例数 (時田 2023 より<sup>7)</sup>)

	状態変化		状態		計
	他動詞	自動詞・再帰動詞	他動詞	自動詞	
auf 動詞	222	84	23	1	330
	67%	25%	7%	0.3%	100%
形容詞 <i>offen</i>	0	0	172	315	487
	0%	0%	35%	65%	100%

#### 4.2. zu 動詞

上記のコーパス調査 (時田 2023) では auf 動詞の事例は主に状態変化を表し、特に他動詞文で用いられる一方、*offen* の表現は全て状態を表し、特に自動詞で用いられるという強い傾向が確認された。それでは、zu 動詞の事例はどのようなふるまいを示すであろうか。不変化詞動詞という特徴が共通する auf 動詞と同様にもっぱら状態変化を表すのか、あるいは異なる傾向を示すのか調査する。分析対象の事例は、時田 (2023) と同じく、Leipzig-Institut für Deutsche Sprache の DeReKo-2021-I (COSMAS II) から収集する。任意の検索結果 2500 ヒットから手作業で該当する事例を選別し

たところ、281の文が該当した。事例中に用いられる動詞は以下に示すように、状態変化を表す文の他動詞が(36a)等の15動詞、自動詞が(36b)の3動詞、状態を表す他動詞が(36c)の2動詞、自動詞が(36d)の2動詞であった。事例を分析すると、(37a)のように状態変化を表す他動詞文が最も頻度が高く、7割近くを占めることが分かった。次に多い事例は(37d)のように状態を表す自動詞の文で2割強であった。また(37b)など状態変化を表す自動詞文、(37c)など状態を表す他動詞文も若干数収集された。事例数を表4にまとめる。

- (36) a. zubekommen, zudrücken, zuknallen, zukriegen, zumachen, zumauern, zuschieben, ...  
 b. zufallen, zugehen, zuknallen  
 c. zuhalten, zulassen  
 d. zubleiben, zusein
- (37) a. Sie geht in ihr Haus und schlägt die Tür zu. (Die Zeit, 02.07.1982)  
 b. Jetzt geht die Tür nicht mehr richtig zu, aber der Alarm an. (die tageszeitung, 21.12.2013)  
 c. Zudem hielten die Zeugen die Tür des Ladens zu, damit die Täter zunächst nicht flüchten konnten. (Rhein-Zeitung, 12.04.1999)  
 d. Als die Tür zu ist, sagt Stefan: ... (die tageszeitung, 19.01.2019)

表4 コーパスで *die Tür* と共起する事例数

	状態変化		状態		計
	他動詞	自動詞	他動詞	自動詞	
zu 動詞	190	19	6	66	281
	68%	7%	2%	23%	100%

以上の結果に基づき、コーパスにおける *zu* 動詞と *die Tür* が共起する文の傾向(表4)を表3と比較すると、状態変化を表す他動詞文が最も多く7割弱を占める点で *auf* 動詞と共通することが分かる。他方、*zu* 動詞では状態を表す自動詞文が2番目に高い頻度を示す点で、*auf* 動詞と異なる傾向を示している。表3では、状態を表す自動詞文は形容詞 *offen* の表現との親和性が高いが、表4では形容詞がないために、状態を表す自動詞文に

zu 動詞を用いる割合が上がると推測される。zu 動詞と auf 動詞は共に不変化詞を伴う対義表現であるが、その実現状況は競合する形容詞の有無にも左右される可能性が示された。このように、コーパス事例において閉鎖を表す zu 動詞と開放を表す auf 動詞が必ずしも同じ傾向を示すわけではないことが明らかになった。

## 5. 結語

以上、本稿では閉鎖の意味を持つ zu 動詞を対象とし、まず意味的な分類を見直し、「閉める」「覆う」「埋める」「締まる」に代表される4つのタイプを提案した。次に、zu 動詞に対応する auf 動詞について辞書における記載状況は各タイプで異なっていること、zu 動詞の意味分類が auf 動詞の分類と完全には対応しないことを示した。さらに、対応する auf 動詞の有無は基礎動詞部分の意味と関連することを指摘した。また、コーパスを用いて zu 動詞と *die Tür* が共起する事例を調査した結果、auf 動詞とは傾向が一部異なることが明らかになった。zu 動詞と auf 動詞は一般に対義関係にあると認められるが、本稿では、各動詞の意味用法や事例の使用状況において完全な鏡像関係にあるわけではないことが示された。

## 注

\*本研究は令和5年度日本大学海外派遣研究員（短期B）として補助を受けたものである。

- 1) 綴りは原文のまま。以下、引用中の a) (*zu*) -*schlieszen*, b) -*beiszen*, c) -*löthen* も同様。
- 2) a) には「閉鎖」の例が挙げられており、b) ~ d) と異なり、下位分類の説明は記されていない。
- 3) Duden (2015) では、*zuklappen* の意味記述では音を伴うと記載されている (mit klappendem Geräusch schließen; Duden 2015 :2089)。一方、*aufklappen* では音を伴うとの明記はない (etw., was aufeinanderliegt, an einer Seite befestigt od. geschlossen ist, durch Bewegen, Anheben eines od. mehrerer Teile öffnen; Duden 2015: 200)。
- 4) 対応する動詞自体は存在するが、意味が異なる場合もある。例えば

*aufkleben* は「ある物の上に貼り付ける」という意である。

- 5) DWDS の新聞コーパスに基づいたデータでは *zuriegeln* (図 2) も *aufriegeln* (図 3) も 1950 年代半ばには使用頻度がかなり下がっているが, *zuriegeln* については, 1980 年代後半に一度わずかに回復した。この差異が Duden (2015) での記載の差に繋がった可能性があるかもしれない。



図 2 動詞 *zuriegeln* の使用状況の変遷 (DWDS)



図 3 動詞 *aufriegeln* の使用状況の変遷 (DWDS)

- 6) 事例収集には Leibniz-Institut für Deutsche Sprache の DeReKo-2021-I を用い, COSMAS II の検索機能により任意の 500 例を抽出し, そこから当該事例を手作業で選び出した。

7) この表では *open* の事例で見られた状態描写の例, 2 例を除く。

### 使用コーパス

Leibniz-Institut für Deutsche Sprache (2021) : Deutsches Referenzkorpus / Archiv der Korpora geschriebener Gegenwartssprache 2021-I (Release vom 02.02.2021) . Mannheim: Leibniz-Institut für Deutsche Sprache. <[www.ids-mannheim.de/DeReKo](http://www.ids-mannheim.de/DeReKo)>

### 参考文献

- Aktaş, A. (2004) : Die Semantik der deutschen Partikelverben sowie die Semantik und die Morphologie der von diesen abgeleiteten Substantiva. Doktorarbeit. Istanbul University.
- Dehé, N. / Jackendoff, R. / McIntyre, A. / Urban, S. (2002) : Introduction. In: Dehé, N. / Jackendoff, R. / McIntyre, A. / Urban, S. (ed.) *Verb-Particle Explorations*. Berlin, Boston: De Gruyter Mouton. 1-20.
- Duden (2007)= Dudenredaktion (2007) : *Deutsches Universalwörterbuch*. 6., überarbeitete und erweiterte Auflage. Mannheim/Leipzig/Wien/Zürich, Dudenverlag. (カシオ電子辞書版)
- Duden (2015)= Dudenredaktion (2015) : *Deutsches Universalwörterbuch*. 8., überarbeitete und erweiterte Auflage. Berlin, Dudenverlag.
- DWDS: „zu-“, bereitgestellt durch das Digitale Wörterbuch der deutschen Sprache, <<https://www.dwds.de/wb/zu->>, abgerufen am 10.08.2023.
- DWDS-Wortverlaufskurve für „aufriegeln“, erstellt durch das Digitale Wörterbuch der deutschen Sprache, abgerufen am 13.11.2023.
- DWDS-Wortverlaufskurve für „zuriegeln“, erstellt durch das Digitale Wörterbuch der deutschen Sprache, abgerufen am 13.11.2023.
- Fleischer, W. / Barz, I. (2012) : *Wortbildung der deutschen Gegenwartssprache*. Berlin, Boston: De Gruyter.
- Griesbach, H (1991) : *4000 deutsche Verben: ihre Formen und ihr Gebrauch*. Ismaning: Max Hueber Verlag.

- Grimm (1954)= Grimm, J. / Grimm W. (1854-1961) : Deutsches Wörterbuch, digitalisierte Fassung im Wörterbuchnetz des Trier Center for Digital Humanities, Version 01/23, <<https://www.woerterbuchnetz.de/DWB>>, abgerufen am 17.11.2023. (本文中引用の Bd. 32 は 1954 年出版)
- Lechler, A. / Roßdeutscher, A. (2009) : German particle verbs with 'auf': reconstructing their composition in a DRT-based framework. In: Linguistische Berichte 220. Hamburg: Helmut Buske Verlag. 439-478.
- Stiebels, B. (2015) : Lexikalische Argumente und Adjunkte: Zum semantischen Beitrag von verbalen Präfixen und Partikeln. Berlin, Boston: Akademie Verlag.
- 時田伊津子 (2023) : auf を伴う不変化詞動詞 – OPEN の意味を含む場合 – . カンミンギョン / 時田伊津子 / 藤縄康弘編 『ドイツ語学への視点・ドイツ語学からの視座』 同学社 . 185-199.